

子どもたちに 体験を通して食育を

太平百合が原地区青少年育成委員会会長 くまき 熊木 もと お 基雄

1 はじめに

太平百合が原地区青少年育成委員会は昭和 59 年に発足し、平成 20 年で 25 周年を迎えました。太平百合が原地区は、人口 17,350 人で、そのうち 18 歳以下の子ども人口は 2,928 人の地域です。現在、当地区の青少年育成委員は 18 人、その委員の中には札幌市内でも珍しく、地区内の太平小学校、太平南小学校、百合が原小学校の校長先生もおり、一緒に活動していただいています。

また、百合が原地区の一部の児童が東区の栄緑小学校に通学していることから、栄緑小学校の先生方にも、地区行事の参加者集めに区境を越えたご協力をいただいています。4 小学校とも共通して教頭先生をはじめ諸先生方には青少年育成委員会活動へのご理解、ご協力をいただき、深く感謝しております。

当青少年育成委員会では地区活動として、数年前から子どもたちの成長に大切な「教育・体育・食育」の中の「食育」に重点をおいて活動を進めてきております。そこで、青少年育成委員会が主催する主な地区行事の活動を紹介したいと思います。

2 ふれあい収穫祭

ふれあい収穫祭は、毎年 9 月第 2 土曜日に太平百合が原連合町内会、太平八丁目通商店街振興組合、そして太平・百合が原各児童会館の協賛と、

北区更生保護女性会太平百合が原分区の皆さん、百合が原ファーム（熊木農園）のご協力をいただき、毎年約 100 人の地域の子もたちや保護者が参加し開催しています。参加料金は 300 円で、ジャガイモ、玉ねぎのお土産代です。

今年はふれあい収穫祭の 10 周年にあたり、平成 21 年 9 月 12 日に開催を予定しています。

過去には雨で順延の時もあり、一昨年は順延してもまた雨で中止となりました。天候に大きく左右される行事で毎年苦勞しておりますが、参加した子どもたちの楽しそうな笑顔を見ると「また来年もやろう」と各協賛団体、そして毎年お手伝いをいただいている更生保護女性会の皆さんや育成メンバーともども次回に向けて心新たに頑張っています。

それでは、ふれあい収穫祭の詳しい内容を紹介致します。

参加者への周知、呼び掛けは毎年 8 月発行の当地区青少年育成委員会の広報誌にて、各町内会、各小中学校、各児童会館で回覧し、申込用紙の配布



太平リリー公園に集まった参加者の皆さん

子どもたちが健やかに育つまち

により参加者の取りまとめをお願いしています。

最近では以前参加した子どもたちが友だちを誘って参加したり、毎年参加している親子も見かけるようになりました。

開催当日、参加者は軍手やゴム手、長靴などそれぞれ収穫作業に適した服装で太平リリー公園に午前9時30分に集合し、開会式を行います。その後2組に別れ、玉ねぎとジャガイモを収穫します。玉ねぎの収穫は、参加者が枯れた葉をハサミで切り、ミニコン（プラスチックの箱）に入れて、そ

の後1.5Kgに計量して参加者人数分を袋詰めして収穫終了です。

ジャガイモの収穫は土の中から手で1つ残らず掘り出し、玉ねぎと同様に袋詰めして参加者のゲームの景品やお土産用を作ります。

子どもたちの作業を見ていると、おのおのの性格が出て、黙々と作業する子、遊びながら作業する子、すぐ飽きてしまう子などさまざまです。でもそんな子どもたちの顔を見ると、汗がいっぱい出ていて、自分たちの手で収穫して喜びあふれる笑顔がまぶしく見えます。

収穫後は、毎年更生保護女性会の方たちにご協力をいただき、蒸かしたジャガイモと茹でたとうもろこしを昼食にごちそうになります。飲み物はお茶や牛乳、ジュースのフリードリンクで好きな飲み物をコップに入れてもらい、飲みたい物を取りに来るたびに子どもたちと更生保護女性会、青少年育成委員との交流が広がります。

昼食後はビンゴゲームを楽しみ、1等から5等まではカレーセット（ジャガイモ、玉ねぎ、人参、カレールー）、6等から15等まではカレーの野菜セット（ジャガイモ、玉ねぎ、人参）残念ながら当らなかった方には袋詰めしたジャガイモ、玉ねぎを受け取り、閉会式終了後解散となります。これで約4時間のふれあい収穫祭の全行程が終了します。食料自給率が40%を下回っている日本では、野菜の種類によっては地球の反対側から入ってくるものもあります。今食べている食べ物がどこで、どのように栽培された物なのかを考え、「食の安心、安全」に関心を持ち、「自分たちで収穫した野菜を家族で食べる」そのひと時に収穫祭のできごとを話しながら食事をしていただけることを願っています。

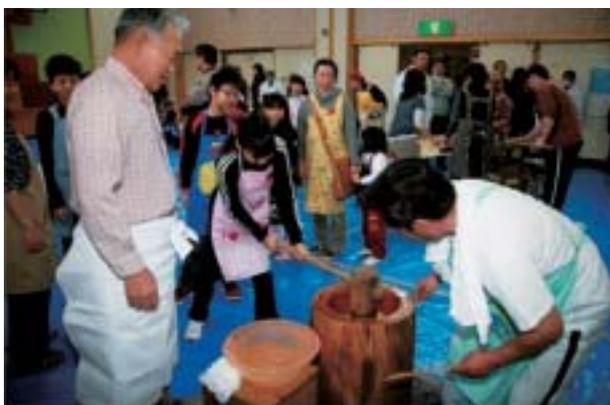


ジャガイモ、玉ねぎの収穫の様子

3 ふれあいもちネバ大会

次に、ふれあいもちネバ大会は、毎年2月の第3日曜日に太平百合が原連合町内会、地区社会福

社協議会、地区民生委員児童委員協議会、太平、太平南、百合が原、栄緑の各小学校、太平・百合が原各児童会館の協賛と、北区更生保護女性会太平百合が原分区、老人クラブ、食生活改善推進員協議会、青少年育成委員 OB や多くの地域の方々のご協力をいただき、太平児童会館体育室、太平百合が原地区会館を会場に約 120 人の子どもたちや保護者が参加して開催されています。参加料金は 100 円（傷害保険代）で、今年は 2 月 15 日に開催しました。



もちネバ大会のもちつきともちづくりの様子

ところで、もちネバ大会って何？もちつき大会では？と思われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。以前は参加者に臼と杵で餅つきを体験していただいていたのですが、自分たちがついたネバネバした餅を手で丸めることも体験してもらおうと「もちネバ大会」と名付けました。

新しい物を求め、目まぐるしく変化していく現代社会において、昔、どこの家庭でも年末になると臼と杵で餅つきが行われていた日本の古き良き風習を次世代の子どもたちに伝えていくことが大切ではないでしょうか。

開会式では作業内容の説明、うるち米やもち米など米の種類や餅つきの道具等の説明がされ、その後、4組の臼と杵を用意して、参加者もおのおの分かれて餅つきと餅作りを体験していただいています。最近では臼と杵を持っている家庭が少なく、毎年4組の臼・杵を用意するのが結構大変です。地域の太平南小学校、太平保育園、当育成委員会会長と委員の遠く離れた実家から借用して、何とか用意しています。

前日から水にうるかした江別産のもち米をタイミング良く蒸かし上げ、まず初めに、「昔取った杵柄？」で自慢のつき手と返し手の息の合ったところをしっかりと見てもらい、子どもたちもつき手にチャレンジしてもらいます。つき終わると今度は、餅を丸める作業をしてもらいます。子どもたちは慣れない餅に奮闘して手や顔を粉だらけにしたりする子や粉だらけの餅を丸めたりする子、少し大きめだったり、小さめだったり、形も四角かったりとさまざまですが、日常、家庭では体験したことのない餅作りに四苦八苦しながら、餅が上がる過程を体験しています。食事の準備ができるまでの時間、子どもたちは「食育カルタ」でカルタ大会をします。

読み手は児童会館の館長さんをお願いしており、館長さんの読み初めと同時に子どもたちは景品があるわけではないのに、必死になってカルタを探

し、楽しいひと時を過ごします。

この「食育カルタ」は平成17年に中央区にある中川米穀(株)の中川喬雄社長が「食と農を考える北海道の会」会長をされており、もちネバ大会で「食育」の話を聞かせていただいた時のお土産で、それ以来、毎年この大会で使っております。ここで、「食育カルタ」の一部を紹介させていただきます。

- (あ) 朝ごはんしっかり食べて1日元気
- (い) 「いただきます」は命に感謝
- (う) 運動と食事のバランス考えよう
- (な) 無くしてはならない地球の緑
- (の) 残さずに食べられる分だけ作って食べよう



食育カルタの様子

など、食育、しつけ、地球温暖化、野生生物存続の危機などさまざまな角度から「食べる」ことへの関心を持ってもらえるようなきっかけを作っています。

カルタ大会終了後、ようやく昼食です。地域のお手伝いの方や育成関係者が「二の腕?によりをかけ」作ってくれたお雑煮やきな粉餅、磯部巻き、砂糖醤油しょうゆなど食べたい物を食べただけ、お腹と相談しながらお替りをして食べてもらいます。

会場の一角には「餅つき」の移り変わりを見てもらうために、用具やもち米、うるち米、糠などの解説展示をしています。日本の古き風習に触れ、子どもたちの思い出のアルバムの1ページとして心に残ることを願っています。このような体験は子どもたちだけではなく、大人や私たち青少年育成委員にも貴重な経験であり、勉強にもなっています。

最後に閉会式を行い、用意した「つきたて餅」を参加者にお土産として持ち帰ってもらいます。これもまた、家族の会話のきっかけになっていた



もちをもらう参加者の皆さん

だければと願っています。

以上が当地区青少年育成委員会の「食育」に関する二大行事の内容です。

4 その他の行事

その他の行事では、北区少年少女スポーツ大会の地区予選会を毎年、百合が原小学校の体育館を使用させていただき、開催しています。また、地区連合町内会行事への参加や太平南サマーフェスティバルへも参加し、各小学校、各種団体との連携、交流を図っています。

また、広報誌「ふれあい」を毎年8月・12月の年2回発行して、広報誌裏面には収穫祭、もちネバ大会の参加を呼び掛ける募集要項を載せています。



百合が原小学校で開催された北区少年少女スポーツ大会の予選(選手宣誓)



太平南サマーフェスティバルに参加する青少年育成委員の皆さん

結びに、太平百合が原地区青少年育成委員会のメンバー全員、それぞれの立場で最善を尽くして活動しておりますので、これからも青少年育成委員会に対して、ご理解、ご協力をお願いいたしまして活動報告とさせていただきます。

5 おわりに

最後に地域の「子ども見守り隊」の活動について少し紹介いたします。

この活動は、太平百合が原地区連合町内会をはじめ、太平百合が原コミュニティネットワーク会議（以下Cネット会議、平成21年度から太平百合が原地区まちづくり協議会）の青少年部会に参画する各種団体がさまざまな活動をしています。平成19年3月、Cネット会議に「子ども見守り隊」が結成され、子どもたちの安全で安心して暮らせる地域づくりをモットーに連合町内会、各小中学校及び各種団体が連携して見守り活動をするようになりました。

平成20年度から、青少年育成委員会のメンバーが、地域内で発生した不審者情報等の連絡体制を携帯メールやEメールを活用して、できる限りリアルタイムで情報を伝達するようにしています。そして、小学校区単位で学校、PTAや単位町内会と情報共有し、さらに太平百合が原地区全体で情報共有ができるような体制づくりに着手したところです。これらの取り組みは、発展途上であり、地域の皆さんや各種団体の協力が不可欠と考えておりますので、安全で安心な地域づくりに向けて、今後ともよろしく願いいたします。